

SYMPOSIUM 2013

植生学会主催 第18回仙台大会 公開シンポジウム

参加無料
当日受付



自然の再生力と

ふるさとの海岸林復興

2013年10月12日[土]

戦災復興記念館(記念ホール)

【開場】13:00 【講演】13:30~16:00



[戦災復興記念館] 仙台市青葉区大町2丁目12-1 TEL. 022-263-6931
地下鉄広瀬通駅(西4出口)より徒歩10分
仙台駅西口バスプール(15番)より東北公済病院・戦災復興記念館前下車、徒歩5分
※会場には駐車場がありません。市営バス・地下鉄等のご利用をお薦めします。

第18回仙台大会
ホームページに
アクセス!!



※詳細情報は、ホームページをご覧ください。http://www.svs18.sgk.iwate-u.ac.jp/

自然の再生力と ふるさとの海岸林復興

南北およそ60kmにわたって砂浜が連なる仙台湾岸には、干潟や潟湖、砂丘、後背湿地といった環境領域から構成される、自然度の高い海岸エコトーンが存在していました。2011年3月の東日本大震災・大津波は、この地にも深刻なダメージを与え、多様な生物とそのハビタットを構成する微地形、土壌、水環境、そして白砂青松の海岸と緑なす田園からなるうるわしい景観は著しく攪乱されました。

それから3生育シーズン目を迎えた2013年夏、海岸エコトーンでは驚くべき状況が生じています。すばやい生物・生態系の自律的再生が記録される一方、急速かつ広範に進められる復興工事が自然環境に及ぼす負の影響が懸念されています。

このシンポジウムでは、主に仙台湾岸を取り上げ、(1)古環境と先人の自然認識・海岸林づくり、(2)東日本大震災・大津波による攪乱と生物・ハビタットの自律的再生、(3)生態系の減災・防災機能の評価、およびそれを最大化する復興のあり方、(4)住民・行政・企業・研究者/専門家が協働するしくみづくり、といった諸課題について、講演と議論を行います。

植生科学と震災復興の連携、学会員と市民・行政の皆さんのきずなづくり、全国と被災地の結びつきをさらに強化する機会の創出を目指したいと思います。

SYMPOSIUM 2013

植生学会主催 第18回仙台大会 公開シンポジウム

10/12
[土]

参加無料(当日受付)

13:30~16:00
(開場13:00)

1. 開催にあたって 福嶋 司(植生学会会長)
2. イントロダクション シンポジウム実行委員会
3. 講演

1) 仙台湾沿岸地域のクロマツ林の成り立ち

菊池 慶子(東北学院大学)

2) 海岸エコトーンモニタリングから見えてきた

海岸林生態系の自己再生

富田 瑞樹(東京情報大学)・平吹 喜彦(東北学院大学)・

原 慶太郎(東京情報大学)・

南蒲生海岸エコトーンモニタリングネットワーク

3) バイオシールドという視点で創造する新時代の海岸林

佐々木 寧(埼玉大学名誉教授)

4) 町民の想い・生活知が紡ぎ出す地域の海岸林

「おらほの森」づくり

松島 宏佑(わたりグリーンベルトプロジェクト)

4. 総合討論

ファシリテーター 原 正利(千葉県立中央博物館分館海の博物館)

藤原 道郎(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科)

お問い合わせ

植生学会 第18回仙台大会実行委員会

TEL/FAX: 022-773-3706 E-mail: sys18@iwate-u.ac.jp/